

令和3年度・令和4年度

阿蘇郡市教育委員会連絡協議会・南小国町教育委員会指定

# 南小国町学力向上推進地域指定 研究発表会

研究主題

## 南小国町の未来の創り手「きよらっ子」の育成 ～資質・能力の4Cを育成する実践から～



子供が主体の「きよら授業」へ



「里山自然体験」での沢登り



学習過程「きよらっこ学習」



「まちインターン」のファンチャレンジ

令和4年11月18日(金)

南小国町立

中原小学校

市原小学校

りんどうヶ丘小学校

南小国中学校

# I 研究の構想

学ぶことを自分の将来とつなげながら、  
社会の中で自分の役割を果たしつつ、自分らしい生き方を  
実現していくための力を育む

## 第2期南小国町教育大綱

南小国町研究主題  
南小国町の未来の創り手「きよらっ子」の育成  
～資質・能力の4Cを育成する実践から～

4C

南小国町の創り手を育成  
するための資質・能力



Communication



Collaboration



Creativity



Critical Thinking

きよらの郷の人づくり

教育プラン

### きよら授業の改善

- ・学習構想案の充実
- ・きよらっこ学習
- ・3人組の学習班
- ・4Cを意識した発問の工夫
- ・学習のまとめの発信
- ・町指導主事の活用
- ・地域人材の活用

### きよら学の推進

- ・ふるさと学習の強化
- ・里山自然体験活動
- ・プレゼンテーション大会
- ・民泊農業体験
- ・まちインターン
- ・出前授業の実践
- ・ドローンプロジェクト

### 家庭・地域との連携

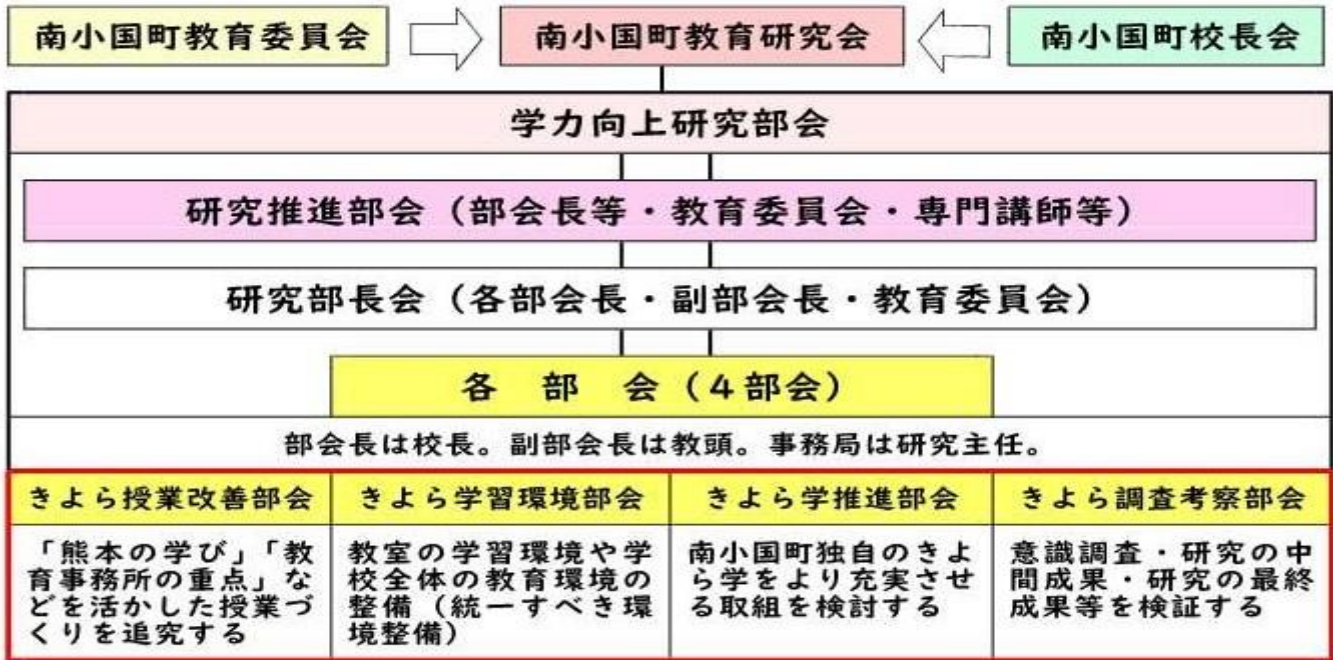
- ・きよらっこノート
- ・南中ノート
- ・地域学校協働活動
- ・学校運営協議会

### 最重要課題

人口減少、若い人が少なくなる中、どうやって  
地域を維持するか → **町を担う人材の育成**

地域の実態・子供の実態・地域や保護者の願い

## II 研究組織



※ 小学校では、三小学校教員を低・中・高学年部に分け、部会ごとに集まって交流授業を行いながら研究を進めてきた。

## III めざす資質・能力「4C」

南小国町の未来の創り手を育成するための資質・能力を下の4つ（コミュニケーション、コラボレーション、クリエイティビティ、クリティカル・シンキング）と考え、「4C」と称している。

<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p style="color: red; font-weight: bold; margin: 0;">Communication</p> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">自分の考えを 他人に分かりやすく、 効率的に伝える能力</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> </div>		<p style="font-weight: bold; margin: 0;">【3人組で話し合い】</p> <p>国語の授業で、作者がどうしてその題名をつけたのかを話し合っている場面。友達からの質問に、教科書から根拠を探して提示し、分かりやすく伝えようとしている。</p>
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> <p style="color: green; font-weight: bold; margin: 0;">Collaboration</p> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">多様な集団の中で、 協働できる能力</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> </div>		<p style="font-weight: bold; margin: 0;">【町役場総務課による出前授業】</p> <p>災害への備えについて、役場総務課の職員から説明を聞く町内全小学校の4年生。町民の一員として防災の意識を高めるとともに自分にできることを考える。</p>
<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> <p style="color: blue; font-weight: bold; margin: 0;">Creativity</p> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">新たな価値を 生み出す豊かな創造性</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> </div>		<p style="font-weight: bold; margin: 0;">【まちインターン】</p> <p>職場体験を通して、事業所のファンを増やす「ファンチャレンジ」に取り組む。写真は、温泉宿のお客様に満足していただける新しい企画を考えているところ。</p>
<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px;"> <p style="color: orange; font-weight: bold; margin: 0;">Critical Thinking</p> <p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">「なぜ・本当にそうなの か」と問いかけ、 納得のいく結論に到達する力</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> </div>		<p style="font-weight: bold; margin: 0;">【プレゼンテーション大会】</p> <p>児童生徒全員が各学年のテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。大会では、学校の代表が発表する。テーマと向き合い、自分の考えを説得力を持って表現する。</p>

# IV きよら授業改善部会

授業の様子、構想案等は、市原小学校HPからご覧いただけます。



4つの共通実践事項を町内4校で共有し、授業改善を図った。

① 単元デザインの段階で4Cを意識  
構想案の学習活動に4Cのマークを入れ、授業者が意識できるようにする。

単元	時間	学習活動（「用い」を設定しても可）	評価の観点等
一	2	1 学習の見通しをも「見立てる」を踏んで「はじめ」「中」「終わりに」に分ける。 2 「見立てる」を読み、筆者の考えを捉える。	【思】「見立てる」について、文章全体の構成を捉えて筆者の考えを把握している。（記述） 【知】単元目標や視覚計画を確かめて見通しをもち、二つの文章を進んで読もうとしている。（観察）
二	4	3 「言葉の意味が分かること」を読んで「はじめ」「中」「終わりに」に分け、文章の内容を捉える。 4 「中」について考え、まとまり同士の間隔を捉える。 5 筆者の考えや事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。	【知】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・記述） 【知】思考に関する語句の量を増やし、語や文章の中で使い、語彙を豊かにしている（発言・記述） 【思】「言葉の意味が分かること」について、文章全体の構成を捉えて筆者の意見を把握している。（記述） 【思】文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。（記述） 【知】単元目標に沿って、文章全体の構成を捉えて意見を把握しようとしている。（記述）
三	1	7 自分の考えを伝え合い、単元の振り返りを行う。	【知】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・記述） 【思】文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（発言・記述） 【知】単元目標に基づき、身に付けた力を振り返ろうとしている。

教師が提示した選択肢に対して、その選択肢以外の答えはないのかと児童がクリティカルシンキングを働かせた。4Cを教師が意識していたことで、児童の意見を反映させ、クラス全体で考えることができた。

複式学級では、4Cを意識することで、間接指導を充実させることができた。

② ゴールの姿を児童生徒と共有  
単元終了時のゴールの姿を、児童生徒と共有できる工夫をする。

▼単元計画例

単元	時間	学習活動	評価の観点等
一	2	1 学習の見通しをも「見立てる」を踏んで「はじめ」「中」「終わりに」に分ける。 2 「見立てる」を読み、筆者の考えを捉える。	【思】「見立てる」について、文章全体の構成を捉えて筆者の考えを把握している。（記述） 【知】単元目標や視覚計画を確かめて見通しをもち、二つの文章を進んで読もうとしている。（観察）
二	4	3 「言葉の意味が分かること」を読んで「はじめ」「中」「終わりに」に分け、文章の内容を捉える。 4 「中」について考え、まとまり同士の間隔を捉える。 5 筆者の考えや事例の示し方に対する自分の考えをまとめる。	【知】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・記述） 【知】思考に関する語句の量を増やし、語や文章の中で使い、語彙を豊かにしている（発言・記述） 【思】「言葉の意味が分かること」について、文章全体の構成を捉えて筆者の意見を把握している。（記述） 【思】文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。（記述） 【知】単元目標に沿って、文章全体の構成を捉えて意見を把握しようとしている。（記述）
三	1	7 自分の考えを伝え合い、単元の振り返りを行う。	【知】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（発言・記述） 【思】文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（発言・記述） 【知】単元目標に基づき、身に付けた力を振り返ろうとしている。

町プレゼン大会に向けたゴールを児童と共有することで、学習したことを生かせる場を意識させることができた。

明確なゴールの姿を掲示し、共有することで、児童の主体的な学びにつながった。

③ 振り返りの視点の明示  
振り返りの視点を明示する。  
学習計画とともに振り返りの視点を明示することで、児童生徒が振り返りを意識した学習ができる。

学習計画	授業を振り返って Challenge : Change	理解度アップ!
第二次世界大戦前 独逸者の出現	独逸人の出現は、第二次世界大戦のきっかけとなった。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 日本が太平洋戦争	日本は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。日本は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 「誰がせつねる」	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④
第二次世界大戦前 独逸は日本の侵略	独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。独逸人は、第二次世界大戦を始める前から、日本に侵略を始めていた。	①+②+③+④

中学校では、単元ごとに学習計画と振り返りをひとまとめにしたシートを活用することで、見直しを持って振り返りができ、「知識・技能」を「活用すること」につながった。

④ 3人組やペアの工夫  
何のための対話、話し合いなのかはっきりさせ、児童生徒と目的を共有する。

燃えてるんだから酸素とくっついたんじゃない?

なんで二酸化炭素の中では消えるのに燃え続けるんだろう..

もう一度実験してみよう。

「なぜ」「おそらく」を話し合いの中で共有することで、課題解決に向けて取り組む意欲を高め、深い学びへと向かうことができた。

複式学級では、間接指導時に学習リーダーを中心とした課題解決に向けた対話を行うことで、自己の考えを広げ、深めることができた。

# V きよら学習環境部会

## A 教室の学習環境

(4Cのコミュニケーション・コラボレーション)

学習環境の説明は、  
りんどうヶ丘小学校  
HPからご覧いただけ  
ます。



**⑤ お話し名人 かきつけごま**  
かんたんに  
聞こえる声で  
口を大きく  
決めていそがずに  
言葉づかいに気をつけて  
前を見て (相手のほう)

**④ 聞き名人 あいうえお**  
相手を見て  
いっしょうけんめい  
うなずきながら  
えがおで  
終わりまで

### 町のもどめる子ども像

- ① 礼儀正しい子ども
- ② 自ら行動する子ども
- ③ 郷土を愛する子ども
- ④ 確かな字力を身につけた子ども

### 南小国町共有ビジョン

～2050年における町のありたい姿～

② き きてきた美しい里山の景観、伝統文化、産業を次世代に引き継いでいく

よ りどり美しい、人と人のつながりを大切にし、一人一人の誇りを高め、多様な働きが活躍しあえる

ら 暮らしやすさを高め、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して暮らせる

の のびのびと学べる環境の中で、すべての人が夢に向かって挑戦できる

さ 再生可能エネルギーを地域産業から生まれ出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する

と 共に暮らし、健康とつながり、社会に貢献する夢を暮らしながら実現

### 南小国町学習過程 きよらっこ学習

みぞみぞくまちがくしょうかてい

き・・・きよのめあてをつかもう ③

よ・・・よく考えよう (ひとりで)

ら・・・さらに深めよう (みんなで)

こ・・・これまでをまとめ、ふりかえろう

### 声のものさし

どれくらい、声の大きさがいいかな?

④

校庭の遠からず 5

クラスで発表 3

4~5人のグループ 2

とせりの友だち 1

## B 学校全体の教育環境

(4Cのクリエイティビティー・クリティカルシンキング)



## C 読書活動推進環境

(4Cのクリティカルシンキング)



### <新聞コーナー>



▲りんどうヶ丘小



▲中原小



▲市原小



▲南小国中

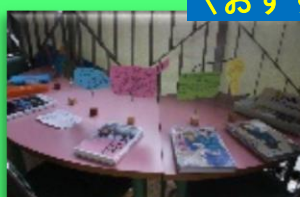
### <言葉のたから箱>



### <家庭学習コーナー>



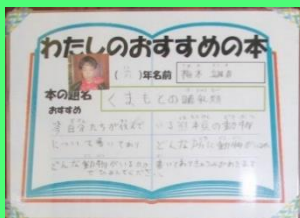
### <おすすめの本>



▲りんどうヶ丘小



▲中原小

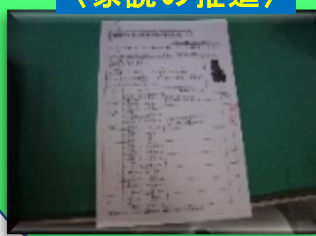


▲市原小



▲南小国中

### <家読の推進>



### <読み聞かせ>



# VI きよら学推進部会

きよら学推進部会の具体的取組 □俯瞰図（下図）

□全体取組図（別紙）

「全体の取組図」や  
きよら学の取組は、  
南小国中学校HPか  
らご覧いただけます。



## ①合同学習

対象 小1～小3  
協働 町内3校の小学生

生活科や社会科の学習において、3校合同で施設見学、学習の発表を行うことを通して同学年の仲間と知りあい、交流を図る。



## ②ふるさと学習

対象 小1～小6（各学校）  
協働 地域の自然・文化

それぞれの校区で、町探検や和太鼓、獅子舞などの伝統文化の体験を通して、地域との関わりを大切にしたい体験学習を実施する。



## ③里山自然体験活動

対象 小4（合同）  
協働 南小国の大自然

町内の4年生が合同で、ネイチャーゲームや沢登りを体験。町の自然の豊かさを感じ、郷土愛と仲間との絆を深める。



## ④プレゼンテーション大会

対象 小1～中2  
協働 これまで学習を支えてもらった方

きよら学の取組を通して考えたことをまとめ、ICT機器を効果的に活用してプレゼンを行い、自分の考えを発信する。



## ⑤民泊農業体験

対象 中1  
協働 町内民家の皆さん

農家との交流を通して、町の基幹産業である農業を体験し、収穫物を活かしたアイデア料理に取り組み、創造力を育む。



## ⑥まちインターン

対象 中2  
協働 町内各事業所

事業所のファンを増やす「ファンチャレンジ」に取り組み、働くことの意義や地域産業の発展に貢献することを学ぶ。



## ⑦出前授業

対象 小1～中1  
協働 南小国町役場各課

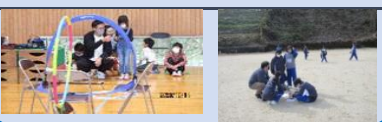
町役場職員が講師となり、町が行っている水・ゴミ・防災・農業等の様々な取組を学ぶことにより町のことをより深く知る。



## ⑧ドローンプロジェクト

対象 小1～中1  
協働 企業・大学生

ドローンを活用した町づくりについて知るとともに、ドローンの操作やドローン撮影による映像編集を体験する。



## ⑨子ども会議

対象 中3  
協働 町議会

これまでの学びを生かし議会と交流。町の未来を展望する。

□より詳しい全体取組図（別紙）

□きよら学を支えるツール

- ・町あるき文化財手帳
- ・南小国の野花手帳
- ・きよらっ子カルタ（作成中）

### 南小国町 きよら学において各段階で身につけさせたいスキル

4C	低学年	中学年	高学年	中学校
 コミュニケーション <b>Communication</b>	じぶんの かんがえをもつ	自分の考えを 伝える	分かりやすく 伝える	分かりやすく 効果的に伝える
 コラボレーション <b>Collaboration</b>	しりあう	いっしょに やってみる	やりとりを 大切にする	多様な集団の中で 協議する
 クリエイティビティ <b>Creativity</b>	やってみる	気づく	新しい発見をする	新たな価値 を生み出す
 クリティカル・シンキング <b>Critical Thinking</b>	いけんをきいて かんがえる	ぎもんを もつ	本当にそうかを 考える	納得のいく結論 に到達する

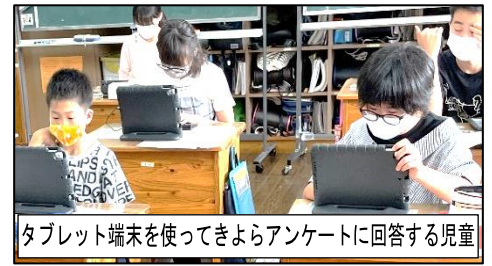
# Ⅶ きよら調査考察部会

きよらアンケートの設問等は、中原小学校HPからご覧いただけます。



## (1) きよらアンケートの実施

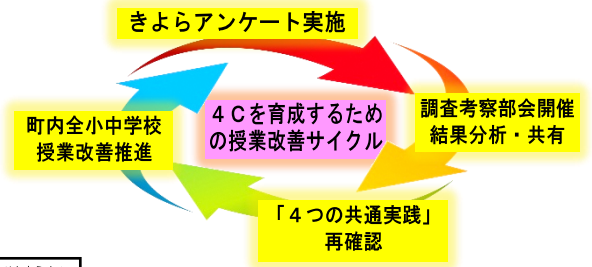
「きよら授業改善部会」の提案する「4つの共通実践」を基盤に、4Cを育成する授業における児童生徒の具体的姿からアンケート項目を設定し、定期的の実施した。また、アンケートについては“即時回答・即時集計”を実現し、授業改善に効果的に機能するアンケートにするため、職員・児童生徒共にタブレット端末でQRコードを読み取り、インターネット回線を通じて回答できるようにアンケート作成アプリを活用した。



タブレット端末を使ってきよらアンケートに回答する児童

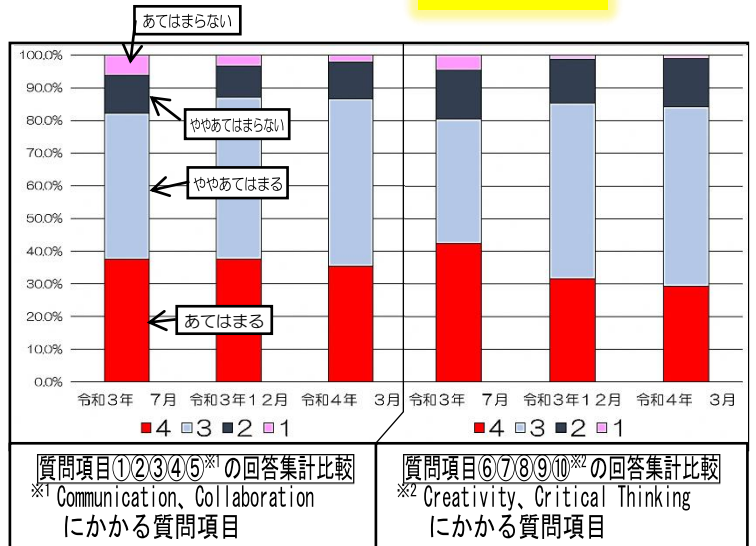
## (2) きよらアンケート結果の分析

きよらアンケート実施後には、「きよら調査考察部会」を開催し、結果の分析を行った。また、数値の低い回答項目については「きよら授業改善部会」の提案する「4つの共通実践」を再確認し、町内全小中学校において授業改善を推進した。なお、令和3年度には計3回の「きよらアンケート」を実施し、次のような成果と課題をまとめた。



- アンケート実施のプロセスにおいて、「4Cを育成するための授業改善サイクル」が確立され、町内全小中学校で授業改善を推進した。
- 「4Cを育成するための授業改善サイクル」を通して町内全小中学校で授業改善を推進したが、きよらアンケート結果からは年間を通じて数値的成果が得られなかった。

その一方で、「4Cを育成するための授業改善サイクル」を通じた授業改善については、令和4年度4月実施の全国学力・学習状況調査の質問紙調査では次のような成果として表れており、取組の継続的効果と期待値を示している。



質問番号 38 前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか。

学年	あてはまる	あてはまらない	その他
小学6年	82.8%	17.2%	0%
南小国町	65.4%	32.6%	2.0%
全国	73.3%	26.7%	0%
中学3年	63.4%	34.2%	2.4%
南小国町			
全国			

質問番号 43 学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。

学年	あてはまる	あてはまらない	その他
小学6年	89.7%	10.3%	0%
南小国町	80.2%	18.9%	0.9%
全国	93.3%	6.7%	0%
中学3年	78.8%	19.7%	1.5%
南小国町			
全国			

## (3) 2部会のコラボレーションによる授業改善の推進

先述した令和3年度きよらアンケートにおける課題を分析する中で、より効果的・実践的に授業改善を図るためには、「4つの共通実践」を学習過程の具体的指導場面に位置付け、町内全職員が視覚的に「授業像」を捉え直す必要性を感じた。そこで、「きよら授業改善部会」と「きよら調査考察部会」のコラボレーションの下に「めざす授業像」を改めて設定し、町内全小中学校において、「4つの共通実践」と「めざす授業像」に基づく授業改善を推進した。

### きよらアンケート項目から考える“めざす授業像”

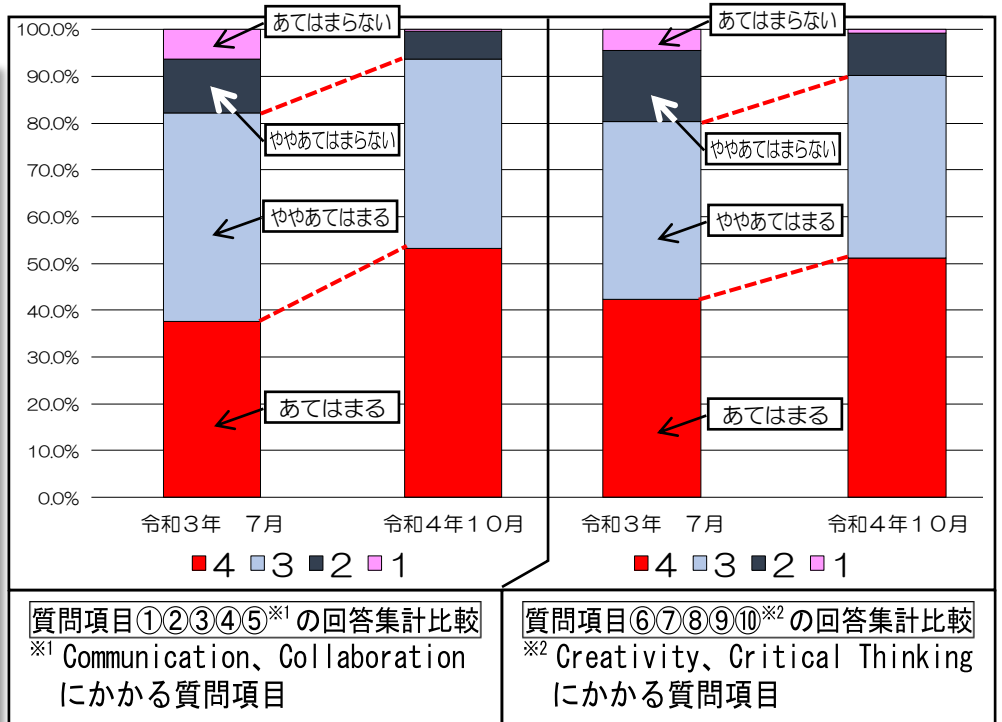
※各項目の番号①～⑩は、アンケート項目の番号と対応

学習過程	学習全体をとおして	授業像
導入	① 自分の考えを相手に分かりやすく説明しようとする場面のある授業	⑦ 新たな課題（問い）と出会ったときに、今日の学習とこれまでの学習の“同じ”“違い”を考えた時、解決するための見通しを持つたりする場面のある授業
	② いろいろな意見を比べながら聞くなど、考えを深める場面のある授業	③ グループで活動する場面のある授業 ④ 話し合い等により、学び合う場面のある授業
展開		

# VIII 研究のまとめ ～成果と課題～

## (1) きよらアンケート結果から

- 研究が本格的に動き出した昨年度の7月と比べ、児童生徒自身が4Cを意識して学習に臨むようになった変容がうかがえる。
- これらの結果は、「きよら授業改善部会」が打ち出した「4つの共通実践」を基盤に、町内全小中学校で授業改善に臨んだ成果だと捉える。
- さらに、アンケートの結果と「きよら授業改善部会」が打ち出した「4つの共通実践」を関連させ、具体的な「めざす授業像」として可視化し、町内全小中学校を挙げて共通実践を図った結果だと捉える。



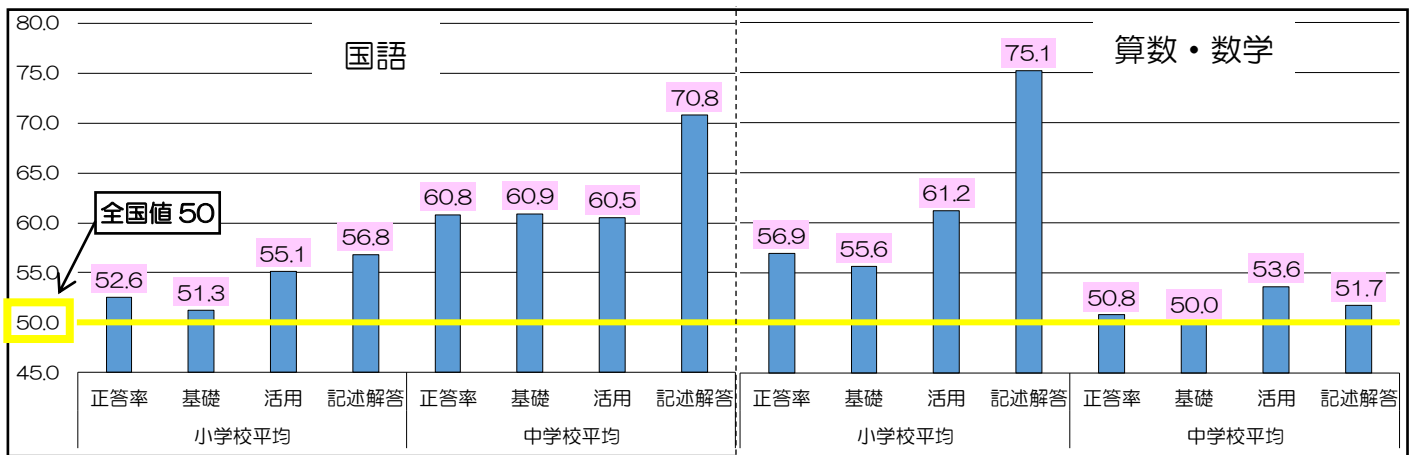
## (2) 各学力調査結果から

### ① 令和3年度熊本県学力・学習状況調査結果

各学年(小学3年~中学2年)の正答率標準スコア(全国値を50としたときの換算値)について、小・中学校別に平均したもの。

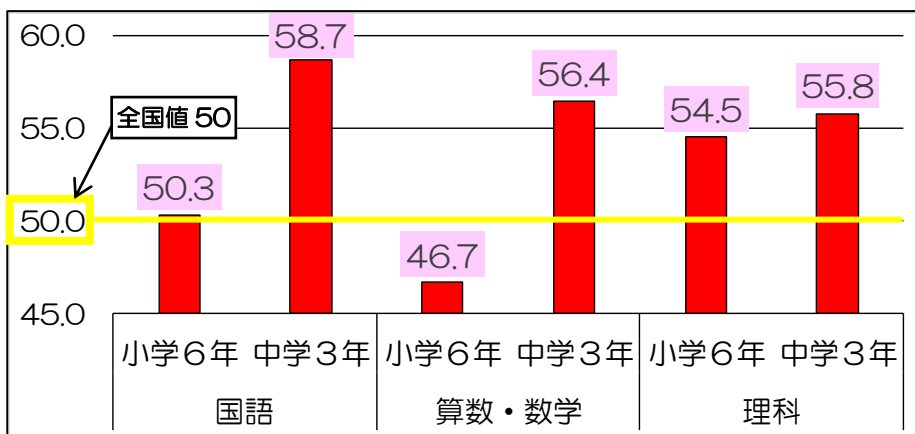


きよらアンケート結果の詳細や研究の成果については、中原小学校HPからご覧いただけます。



### ② 令和4年度全国学力・学習状況調査結果

小学6年、中学3年の標準スコア(全国値を50としたときの換算値)を表したものを。



- 県学力調査では、学年差・教科差はあるものの、全体的に研究の成果が表れている。
- 特に、記述回答の数値的成果は、「誰かに伝えることを意識しながら学習をまとめる授業・単元デザイン(プレゼンテーションを意識したまとめ)」の成果である。
- 全国学力調査の結果においても、ほとんどの教科で全国値を上回っている。
- 「4つの共通実践」と「めざす授業像」を基盤にさらなる授業改善を図り、児童生徒の4Cを高めることを通して「確かな学力」の向上を町内全小中学校で目指したい。